

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

## 78回目の原爆投下の日 核兵器使用の危険性高まる今こそ 日本政府は核禁止条約へ参加を

### 核廃絶求め「平和の波」行動

8月6日、人類史上初めて核兵器・原爆が広島に投下されて78年目を迎えました。「ヒロシマからのメッセージ」が採択されました。

被爆地広島では原水爆禁止2023年世界大会「ヒロシマデー集会」が開かれました。集会では「核兵器使用の現実的な危険性が高まる中で、すべての核保有国と核依存国の政府に対して、広島から多くの市民とともに核兵器の禁止・廃絶、核兵器禁止条約への参加を求めるアピールを世界に発信しよう」と、日本の被爆者の運動、世界各地での戦いが報告され、日本政府に対して禁止条約の参加を強く迫る



駅前を利用する市民にうたごえでアピール

大会に呼応して、松江市はじめ県内各地で「平和の波」行動として、様々な行事が取り組まれました。「平和の波」

は、8月3日から9日までの期間、核兵器廃絶を願って、世界で取り組まれています。

8月5・6日には松江テルサで「平和のための戦争展」が開かれ、多くの市民が参加しました。6日、9日には市内の寺院で原爆投下の時間に合わせて「平和の鐘」が鳴ら



原爆パネルを熱心に眺める来訪者の皆さん



「平和の鐘」を鳴らす市内の寺院の様子

されました。呼びかけに賛同する寺院で子どもたちや集まっ

た市民が平和の願いを込めて鐘をつきました。

松江駅前では「日本政府の核禁止条約への参加を求め、核廃絶を求める」署名活動が行われ、傍らで島根うたごえ協議会が「原爆を許すまじ」などを歌い市民に核廃絶の思いをアピールしました。県内各地で世界大会をオンラインで視聴する会も行われ、核廃絶の思いを新たにしました。

### しまね自治労連結成

7月17日、自治労連の県本部として、島根県自治体労働組合総連合（略称・しまね自治労連）を結成しました。自治体職員や介護・保育などの公共サービスの携わる労働者でつくる五つの労働組合（単組）で構成する組織です。

県内初の自治労連加盟単組が誕生したのは2004年。同年に自治労連の県事務所も開設されました。この間、NPO法人での雇止め、隠岐



しまね自治労連結成総会で役員に選ばれた皆さん

の島町農業公社の業務縮小・整理解雇との闘いを始め、介護職場を中心に、労働者の権利を守って貴重な成果を上げてきました。また、2022年に実施した自治体の会計年度任用職員への『誇りと怒りのアンケート』には、「官製ワーキングプア」と言われる厳しい実状が寄せられ、マスコミにも取り上げられました。私たちは、公務公共関連労働者で組織する労働組合です。住民サービスの最前線で働いています。住民福祉の向上と私たちの待遇改善を一体のものとして追求し、民主的自治体と地方自治確立の担い手の一つとなる決意です。まだまだ小さな組織ではありますが、県内の様々な運動の前進に貢献できるものと思っています。どうぞよろしくお願います。（執行委員長・塩治隆彦）

### 戦争も核兵器もない未来を

#### むらほえりこ 街かどから訴え②

わたくしの立場補の決意の根底にあるのは、岸田政権が押し進めている大軍拡を阻止したいという思いです。

かつて教壇に立ち子どもを命を預かってきたものとして、また、自分自身が子どもを産み育てたものとして、誰のこ

どもも戦場には送らない、子どもの未来に戦争も核兵器もいらないという、反戦平和への願いがあります。最近印象深かったことは、6月23日沖繩全戦没者追悼式での17歳の高校生が朗読した「平和の詩」の一節、ロシアによるウクライナへの侵攻に対して感じたことを表現した一節です。「平和は不確かでも、もろく崩れやすい。いつか消えていく」と。確かにウクライナでは世界でも類を見ないほど美しい街と評されていたキーウの町が、静けさの中にある。高校生の感じた平和の不確かさは、平和

のもつ弱さであると言えるでしょう。しかし、一方で、その平和は私たちの努力によってこそ維持でき、その積み重ね以外には平和を確かなものにすることはできないという叫びのように感じました。今、岸田政権の「力対力」で対応する軍事増強に対して日本共産党は、話し合いによる平和外交を提起しています。これができるのは、戦争放棄をうたう平和憲法日本国憲法をもつ日本をおいてほかにありません。

東アジアサミットという平和の枠組みを進展させることに日本も協力し、戦争の準備ではない、平和の準備をする。そのことが今、求められていることではないでしょうか。



むらほえりこ 衆議院議員